

（発展レポートに挑む前に）補足講義：初級ミクロ経済学 or 経済政策で学習した、政府の目標と政策の関係

これは発展レポートに挑む方用の追加講義です（ビデオはありませんが、読むだけで分かるように作りました。）

1. （復習）ミクロ経済学における政府の目標

以下の2つでした。

- 効率性（市場の失敗の是正）
- 公平性（再分配）

2. 政府の目標と、対応する政策

効率性（市場の失敗の是正）と公平性（再分配）毎に整理しましょう。

2.1. 効率性（市場の失敗）

2種類に分類できます。

1. 取引量調整政策

- 非効率性（死荷重の発生）とは、結局、最適取引量に対して市場の取引量が過小または過大になることでした。
- 以下の政策はいずれも、結局、市場の取引量を増やしたり減らしたりすることで最適取引量に向けて是正する政策です。

（その財に対する）税 or 補助金、下限 or 上限数量規制、下限 or 上限価格規制

2. 市場創造政策

- 市場の失敗の分類ごとに健全な市場が成立しない理由を特定し、制度的にその原因を取り除くことで、健全な市場を確保する政策でした。

市場の失敗の分類と、非効率性・注意点・対応する政策まとめ

市場の失敗の分類	非効率性	注意点	取引量調整	市場創造
不完全競争	過少取引	儲けすぎ（＝不公平性）の問題ではない	上限価格規制	上下分離方式
外部性	過大取引 ＊正の外部性なら過少取引	金銭的外部性と区別する	ピグー税・補助金	制度を整えて、外部性に所有権を設定。 ＊必要なモニタリングコストに見合うか？
公共財	過少取引	・財の機能をどう解釈するか？ ・非効率性にとって重要なのは、排除可能かどうか	政府による購入・供給	制度を整えて、排除可能性を確保。 ＊必要なモニタリングコストに見合うか？
情報の非対称性	過少取引	情報の不確実性は市場の失敗ではない。	強制加入 ＊モラルハザードは防げない。	資格制度・検査制度

2.2. 公平性（再分配）

ミクロ経済学入門 or 経済政策のレベルでは、基本的に学習することは以下の原則 1 つだけでした。

誰かを救いたいときは、特定の財の取引量に補助を紐付けるのではなく、直接現金を給付した方が良い。

- （弱者が購入する財を割引する、などの）特定の財に対する取引量調整政策を用いた再分配がしばしば提案・実施される。これらは確かに不公平を是正する効果があるが、（上記で述べたように）市場の失敗がないのに市場の取引量を調整することは逆に最適取引量から取引量を乖離させることを意味し、逆に非効率を生むので望ましくない。
- 救済したい対象（儲けすぎの対象）に対して直接金銭を給付（徴収）すれば、特定の財の取引量を歪めないで、非効率を生じさせることなく同じだけ不公平を是正できる。
 - 例：Go to キャンペーン（行ったら補助する）よりも、旅行・宿泊業者への一律給付金

ポイント（最後のうちわ）：「〇〇ができず不遇な人を救うのは、〇〇をさせてあげること」という考え方が間違いのもと

- 現実の政策の目的として、〇〇ができず困っている人を救うために、〇〇の価格を補助する、〇〇の供給を義務化する、という目的は多いでしょう（典型例は、保育園の無償化など）。経済学の勉強をしていなければ、それは当たり前のことに思えてしまうはずです。しかし、上記の公平性（再分配）についての政策の議論がしているのは、まさにそのような発想が誤りだ、ということです。
- 経済学の規範的議論の本質は、モノの価値は本人が決める（第 1 回）、ということでした。部外者の貴方から見て〇〇がどんなに大事なものでも（あるいはテレビで、〇〇ができず苦しむ人が、あたかも、全員がそうである、という風に取り上げていたとしても）、実際には、当事者の中には、大事に思う人もいれば、そうでもないという人もいます。政府が税金を使って〇〇に補助をすれば、後者の「そうでもない」という人も〇〇を選ぶでしょう。本来、社会にとって便益より費用の方が大きくても、補助があれば個人的にはわずかに便益の方が大きくなることもあるからです（これが補助の死荷重でした）。
- 代わりに、補助にかかるはずだった支出と同じ額だけ、〇〇ができない人に直接現金を給付すればどうでしょうか。〇〇を大事に思う人は、受け取った金銭をそのまま〇〇に使うでしょう（つまり、〇〇を補助した場合と変わりません）。他方、「そうでもない」という人は、（大して価値を感じていない、つまり、便益より費用の方が大きい〇〇ではなく）その人にとって純粋に大事なことに金銭を使うはず。つまり、「そうでもない」という人にとっては、こちらの政策の方が厳密に望ましいことになります。つまり、パレート改善が実現できます。* 〇〇をする人が減ってその取引相手が困る可能性を考慮していない、という発想は誤りです。それは金銭的外部性です。
- まとめましょう。「〇〇ができず不遇な人を救うのは、〇〇をさせてあげること」という発想は誤りです。不遇な人を救いたいのならば、同じ額の金銭をその人たちに直接渡すべきです。そうすれば、不遇な人は自ら、自分たちが一番大切だと思うものにその金

錢を使えるはずでず。同じ額の金銭で、不遇な人をより積極的に救うことができるので
す。

発展レポート

国（外国含む）・地方自治体が行う具体的な政策を一つ取り上げて、その政策の正式な目的を踏まえて、その政策がその目的を達成する手段として妥当と言えるか、ミクロ経済学の観点から分析しなさい。

以下の構成にすること

1. 選んだ政策の概要
2. 政策の正式な目的と、その経済学的な解釈
3. 妥当性の分析

形式

- 締め切りは授業最終日。第 15 回から提出できるようにします。
- A4 で 1-4 ページ。ファイル形式は自由（手書きの写真でも可）。
- 「妥当性の分析」では、原則、部分均衡分析のグラフを 1 つ以上入れること。
- 以下の解説と、末尾のループリック（採点方針）を読んでから書くと良いでしょう。

解説

①政策の選び方：

学習したことの応用例を自ら見つける力を評価するので、政策は（経済力の授業で取り上げられがちな）有名なものを選ぶよりも、ちょっとした政策でも良いので経済学では普段取り扱われないようなものを見つけて分析した方が評価が高いです。

②政策の概要：

ここは後半の分析を安達が理解できるように書いてもらうものなので、必要なことだけ簡潔に書けば良いです。政策の概要と次の目的については、出典（参照した web サイト等）を必ず示すこと。

③現実の政策の目的と、経済学的な解釈：

政策の目標を調べても、上記の経済学の目標のように書いていないでしょう。しかし、ほとんどの政策の目標は、上記の経済学の目標のいずれか、またはそれらの複数の組み合わせ、として解釈できます（これは次の「政策」の経済学的な解釈についても同様です）。まず現実の政策の目標を延べ、その上で、それを経済学的な政府の目標としてどのように解釈するか、自分なりに説明してください。

④政策の妥当性の分析

ミクロ経済学の視点から分析する。

ミクロ経済学に則った分析でなければ採点対象になりません。上記の経済学の目標と政策の関係を踏まえて（効率性が目標であれば表を、公平性が目標であれば唯一の原則に注意して）、その政策が経済学の視点から正しい政策と言えるか、検討してください。＊上記のリスト以外にも注意点を授業中に紹介してきました。それらについても思いつければ議論すると良いでしょう。

部分均衡分析のグラフを使って解説する。

効率性（市場の失敗）については、情報の非対称性を除いて、部分均衡分析のグラフを解説してきました。公平性についても、取引量調整政策が非効率である、ということについてはグラフで解説を行いました。つまり、大半のケースについては、対応するグラフを学習しています。

自身の選んだ政策の目的に合わせて、授業で学習したグラフを選び、その政策が解決しようとする問題、またはその政策自体の問題について、そのグラフを使って解説をしてください。

グラフの縦軸と横軸については、選んだ政策、問題に合わせて適切なものを考えてください。

＊情報の非対称性の問題など、関連するグラフを授業で習っていない場合のみ、グラフはなくて構いません。

ループリック（採点方針）

	要改善
選んだ政策（3点）	<p>（要改善）教科書に載っている、またはミクロ経済学の授業でよく取り上げられる題材である。</p> <p>（良い）上ではない。</p>
政策の目的の解釈（3点）	<p>（要改善）下ではない。</p> <p>（良い）まず現実の目的を説明し、その上でその目的をミクロ経済学的に解釈している。</p>
ミクロ経済学の視点からの分析（6点）	<p>（要改善）ミクロ経済学に沿った分析（補足講義を参照）が十分に為されていない。</p> <p>（良い）ミクロ経済学に沿った分析が十分に為されている。</p> <p>（優れている）左に加えて、補足講義にはない、ミクロ経済学に基づいた深い考察（各授業回の内容を踏まえて自分で考えた物、など）がある。</p>
部分均衡分析のグラフ（4点）	<p>（要改善）分析と関係が無いグラフである。</p> <p>（良い）分析に対応するグラフが書かれている（または適切なグラフがない題材である）。</p> <p>（優れている）上に加えて、縦軸・横軸ラベルや曲線の形・意味などに選んだ政策の議論に沿った独自の配慮があり、その点について本文に説明がある。</p>